2Ea-10

日本人青年が抱く身体理想像の他国との比較

○川上　梅　　松本　幸子
（東京家政学院大）

【目的】エステティック，痩身美容などの産業の需要の増加にみられるように，近年，日本では外観を意識する傾向が一段と高まった様に感じられる．このような社会現象の背景には，これまでにも指摘されているような日本女性の強い痩身願望があるためと思われる．このような身体に対する意識は，整容効果の高い下着の着用など，衣服の着装行為に影響を与えている．以上のような観点から，本研究では，自己の身体にどの程度満足しているかについて調査し，日本人と外国人との身体に対する意識の構造の違いを検討した．

【方法】質問項目は，身長，体重，バスト，ウエスト，ヒップ，顔，脚の６項目のサイズであり，自己申告で記入するとともに，［理想より大きい，理想通り，理想より小さい，分からない］の４段階で自己評価していただいた．アンケートの採取対象は，日本在住の他国籍の留学生および海外に住む外国人とし，調査方法は，直接，調査用紙に記入を依頼する方法とパソコン通信によるインターネットを利用する方法を併用した．その結果，フィリピン４４名，アメリカ２１名，中国１６名など２４ヶ国より１３２名および日本５０名の１５歳以上３９歳までの回答者を得た．

【結果】身体に対する満足度は，男女差よりも国間差によることが明らかであるが，理想とする具体的な身体像には男女でやや違いがみられる．アメリカ男女，中国男女，フィリッピン女子では比較的満足度が高く，日本女子が理想とするモデル的な身体つきを自己の理想とする傾向は，他の集団ではみられない．日本女子は胸囲にこだわるが，他国の女子は腰囲にこだわる傾向もみられる．